

西日本豪雨被災者の方々に「花活」を楽しんでいただきました

2018年7月7日には広島県安芸郡坂町小屋浦では豪雨となり、周囲の山などからの雨が住宅地に流れてきて崖崩れや川の増水、氾濫などが起こり、甚大な被害が発生しました。ここでお話しする「花活」の地域でのまとめ役である高下(こうげ)さんご自身も自宅の2階の窓を突き破るくらいの高さの土石流に飲み込まれ、下の写真の様に家屋が激しく損壊しました。

この豪雨から8ヶ月ほど経った、2019年1月27日(日)ひろしまね園芸福祉協会のメールアドレスに1通のメールが届きました。「広島福祉施設で花活を知りました。」とあり花活について詳しく知りたいとのことでした。メールをくださったのはカリタスジャパン(次紙の下参照ください)広島教区災害サポートセンターの修道女(シスター)と名乗る女性でした。これまで被災者を支援するために子供食堂を運営したり、種々支援活動を続けておられたとのこと。私は、広島県花きイノベーション事業推進協議会が企画運営する「花活」(後述)に最初から関わらせていただいていたので、早速メールをくださったシスターの方と修道院でお会いしてお話をさせていただきました。



2月22日シスターとお会いして、小屋浦での第1回目は西日本豪雨被災者の方々20名を対象として瀬戸内海に面した坂町所有の集会所で開催することとしました。この活動では経費の関係上、的場会式「花活」(後述)を採用して行うことになりました。

西日本豪雨被災者の方を対象とした「花活」の第1回目は2月26日の13時30分から開始しました。

当日は地域の方々が三々五々会場へ来てくださいました。20名の予定が集会所に入りきれないくらい沢山の被災者の方々にお越しいただいて会場はとても盛況でした。園芸福祉士でもある花屋さんが春らしい花を選んでくれて、会場は春の雰囲気になり溢れていました。

花を咲かそう プロジェクト
in 小屋浦 みんなで花活!

毎年の春を飾る花を飾り、ひまわりの種を植えて育て
持つ小屋浦で、一足先に花を咲かせませんか?
花は心の栄養。みんなでしゃべりを楽しみながら、あつた
うらなに花のアレンジメントが出来ちゃいます。西日本豪雨
で被災した花屋さんも応援しながら笑顔の花を咲かせま
しょう。そして、春は花がいっぱいの季節に!

日時 ● 2019年2月26日(火) 13:30~15:30
花屋とお茶

場所 ● 町営住宅(雇用促進住宅)の集会所
敷地が狭いので、30名さまほどを目標にしてお
ります。当日はお茶も準備しておりますので、お茶だけの
ご参加もお気軽にどうぞお待ちしております!

Caritas Japan
広島教区災害サポートセンター 問い合わせ: 085-9782-3441 様式



「花活」終了後、参加された方々に感想を書きいただきましたので、代表的な例を下記します。

家をこわさないといけない人が多い中我が家は直せば良かって庭の花は、どろと一緒にかたづけちゃって、花が無くて悲しかったけど色々な人の事を思って花を植えるのをあきらめていました。心をいやしてくれるのだから、少しずつ植えてみようと思えるようになりました。ありがとうございました。アレンジメント初挑戦 楽しく実施できました。ありがとうございました。(72歳女性)

水害で庭にあった木花等全部流されて今は何もなくなっていますので、久しぶりに花にたずさわれたことがとてもうれしいです。花は心の糧です。又機会があれば是非参加出来ればとおもいます。今夜は安眠出来そうです。有難うございました。頭のしげきにもなりました。(76歳女性)

第1回目はひろしまね園芸福祉協会3名のメンバーが講師や助手を務めました。

3月8日にはシスターから、先の1回目の「花活」が好評だったので、第2回目を3月22日に同じ場所で開催したいとのメールをいただきました。第2回目は3月22日に前回と同じ場所と時間で開催し、30名の地域の方が参加されました。

30名の内、今回が初めてという方が10名おられました。また、参加された方の3人に一人が次会を期待すると感想に書いておられました。



花活終了後、まとめ役の高下さんが参加者の皆さんに問いかける形で、今後の進め方について話し合いをされました。おむね、今後は1月と8月を除く毎月第3日曜日などに、花材等の費用は参加者負担で、園芸福祉社が3名程度がお手伝いする方向で、詳細を詰めていくこととなりました。

今回参加された方の中には、前回の作品をスマホの待ち受け画面にしていると、誇らしげに見せて下さる方もいらっしゃいました。「前は家の中にいつも花がありました、被災後はなかなかそうはいかず久しぶりに花と過ごせて幸せでした。」というような感想を数名の方が書いておられました。

カリタスジャパン: <https://www.caritas.jp/>

「花活」とは、2014年から始まった広島発の新語。「生活に花を取入れて心豊かに暮らす」試みとして社会福祉施設等でフラワーアレンジメントを1時間程度楽しんでもらい、同時に脳の活性化も期待する活動のことです。

ひろしまね園芸福祉協会は、広島県花きイノベーション事業推進協議会が企画運営する2014年に開始した「花活」に最初から関わらせていただいていた。この事業は5年間続き、2018年度で終了となりましたが、この間、広島県内122ヶ所、3535人の老若男女に、フラワーアレンジメントを楽しんでいただきました。このフラワーアレンジメントは特殊な印付吸水スポンジを使うことによって視覚性ワーキングメモリや視空間認知機能、順序認知機能などが向上したり、認知機能障害の維持・改善効果が期待されます。日本園芸福祉普及協会の吉長理事長などが医学的な見地からこのフラワーアレンジメントを勧められました。下の写真はイノベーション事業で採用したイレカエール、印付吸水スポンジを使ったフラワーアレンジメントの例です。



印付吸水スポンジ(9cmポットの大)



フラワーアレンジメントの



イレカエール(9cmポットを4つ飾ることができ)

イノベーション事業では、2016年12月には「道の駅たけはら」で花活講習会を開催し、その翌年には「花活を複数回繰り返した場合はどのような効果が出てくるのか」を検証しました。竹原市の社会福祉法人的場合さんのデイサービス利用者さんにご協力いただいて、ひろしまね園芸福祉協会もこの検証に参加しました。調査した結果、認知機能に改善効果が出てくる可能性が確認されました。

この検証結果を受けて、2018年5月からは「場合」の2つのデイサービスでそれぞれ2週間に1回「場合式花活」を開催することとしました。場合式花活は実際の高齢者施設のデイサービスプログラムに組み込む為に、イノベーション事業で使用した機材やデータの録り方などを見直して、場合式花活(以降MHKと略す)として新たに活動を始めました。花材も場合近くの花屋さんにご協力いただいてワンコイン程度のコストに抑えて、花器も安価な陶器製として自宅でも鑑賞に耐えるようなものを選定しました。MHKでは毎回「花活」の作品を自宅や居室に持ち帰って家族との会話の機会を増やしたり、簡単に花の世話をできるように配慮しました。2019年3月末時点で2箇所のデイサービスでそれぞれ22回 MHKを継続開催し、必要なデータも採取していますが認知機能の低下が防げていると推認できる状況です。



MHK道具箱



MHKの作品



MHKの吸水スポンジと花